
三題噺：テレビ、ビニール傘、羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺：テレビ、ビニール傘、羽

【Nコード】

N8603K

【作者名】

【あらすじ】

大学の部活の一環として「三題噺」というのをやってみました。ルールは、各人が1つずつ思いつきで挙げた言葉3つを使って文章を書くというもの。

今回は「テレビ」、「ビニール傘」、「羽」がお題。

この文章構成能力に欠ける作者のあがきっぷり、ご覧あれ。

「もう、好きにすればいいじゃない!」

友人からの電話を一方的に切り、ケータイを投げ捨てた。苛立ちを紛らわそうとつけっぱなしになっていたテレビを見ると、雨にぬれて震える鳥が映し出されていた。

「……。サイアク」

どうにも苛立ちを紛らわすことが出来なかった私は、外出する事にした。しかし。

サアアアアア……

外では雨が降っていた。ここまで来て引き返すことはどうにも出来ず、傘立てに立てられていたビニール傘を引っつかんで歩き始めた。

冷たい雨の中、人気のない夜の街を独り歩いていく。何を思うわけでもなく、どこか当てるわけでもない。ただ、フラフラと歩く。『散歩』といったところなのだろうが、私の気持ちは晴れなかった。

チツ……チツ……

「……?」

チツ……チツ……

「鳥……かな。この裏……？」

聞こえてきた鳥のような鳴き声に釣られて、私は路地裏へと入っていった。少し歩いていくと、すぐに真っ白な鳥が地面に倒れているのを見つけた。

チツ……チツチツ……

「……怪我してるのかな。どうしょ……」

ふと、テレビに映っていた鳥の姿が思い出され、なんだかよくわからない責任感というか、使命感というかに襲われた。

「……まあ、いつか」

私は手にしていたビニール傘を地面に置くと、路地裏を後にした。

傘をおいてきて、もうフラフラする気もなくなったから、家に向かって歩くことにした。冷たい雨は相変わらず降っているが、なぜか不快な気分じゃなかった。家に帰って上着を脱ぎ捨てて髪も乾かさずにベッドに倒れこむと、すぐに眠ってしまった。

目覚めてから、昨日脱ぎ捨てた上着をハンガーにかけ、クローゼットにしまおうとした時、上着のポケットから真っ白な羽が出てきた。

「……羽？」

摘んで眺めていると、ケータイがなった。相手は、昨日の友人だ

・ 0202e ・

「んじゅんじゅん……」

った。

(後書き)

以下、作者の独り言です。興味ねーよって方はスルーしてください。

十 十 十

とまあ、こんなもんでしたがいかげんかだったでしょうか？

これは制限時間30分＋ で書いたものです。

各人の思いつきで出てきた言葉で小説を構成するのはなかなか難しいもので、プロットの構成に15分も取られ、最後まで書ききる事は出来ませんでした。『＋』は制限時間外で書き加えた部分という事です。

あれ、何が言いたいのかわからなくなった……

これ以上ボロが出る前に、お暇させていただきます。

ではっ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8603k/>

三題噺：テレビ、ビニール傘、羽

2010年10月14日09時56分発行